

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和6年12月19、20日に2024（令和6年）度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（2025年1月～6月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

■ 海 況

黒 潮：A型基調で推移する。蛇行北上部は、概ね伊豆諸島海域の西側に位置する。房総沖では、沖合の冷水渦の接近に伴い離岸することがある。
（説明）2017年8月に大蛇行になり、7年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」を含む「高め」となる。伊豆諸島海域は、「やや高め」～「極めて高め」で推移するが、八丈島周辺では一時的に「低め」～「平年並」となることがある。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度
や や 高 め：平年値+1.0℃程度
高 め：平年値+1.5℃程度
極めて高め：平年値+2.0℃程度

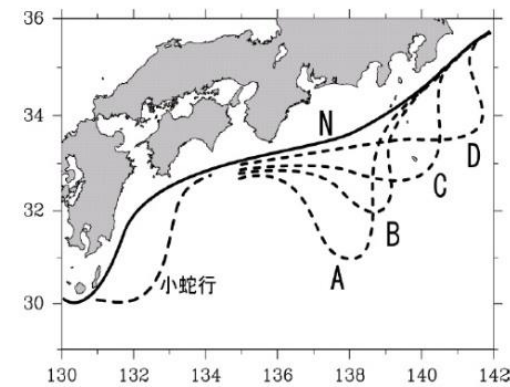


図 黒潮流型の分類

■ さば類

来遊量：不漁であった前年並みの低水準で推移する。

（説明）2000年代以降増加していたマサバ太平洋系群の資源量は、直近の資源評価では減少する方向に転換したとみられています。加えて黒潮続流が三陸沿岸付近まで北上することで、伊豆諸島海域への南下が妨げられると考えられ、2025年の本県沿岸への来遊量は引き続き低水準となる見込みです。

ゴマサバは非常に低レベルで推移する資源量に呼応するように、昨年7～12月の伊豆諸島海域、相模湾の定置網の漁獲量は少なく、マサバと同様に来遊量は低水準となるでしょう。

これらのことから、引き続き東京湾～相模湾に来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、厳しい予測を出さざるを得ない状況です。

1月に開催された一都三県さば漁海況検討会の情報から、魚体サイズはマサバ：尾叉長 27～35cm（体重 250～600g）、ゴマサバ：32 cm以上（350 g～）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：平年並で推移する。

（説明）本県における2024年7～11月の主要定置網漁獲量は前年の141%、平年（過去5年平均）の118%でした。

マイワシ太平洋系群の資源量が2010年以降増加しているほか、黒潮大蛇行によって産卵親魚が伊豆諸島海域に来遊するようになり、神奈川県沿岸でも1～5月は漁獲量が高く推移しています。一方で、6～12月のヒラゴ～小羽サイズである0歳魚の漁獲量は低く推移しています。これら近年の傾向から1～6月は産卵親魚主体で漁獲量は平年並と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：引き続き低調で推移する。

（説明）本県における2024年7～11月の主要定置網漁獲量は前年の93%、平年（過去5年平均）の16%でした。

2025年1～6月は、近年の傾向から被鱗体長7～10cm程度の0～1歳魚が漁獲の主体となるでしょう。カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、依然低水準です。また、黒潮大蛇行が継続している2018年以降、主要定置網の1～6月漁獲量は37～355トンの低レベルに留まっています。今後も、黒潮大蛇行は継続すると予測されることから、今漁期の漁獲量も引き続き低調と考えられます。



■ マアジ

来遊量：1歳魚を主体に前年を下回るが、平年（過去5年平均）は上回る。

（説明）相模湾（西湘）定置網の2024年下半期の漁獲量は、豊漁であった前年（2023年）下半期を下回りました。マアジ太平洋系群の資源量は依然「低位」ですが、2023年の各地先の当歳魚が豊漁であったことより、増加に転じました。なお、本県沿岸の資源水準は「中位・増加」と考えられます。

ジンダ銘柄を含む2024年の当歳魚の漁獲量は、前年を下回りましたが、低迷していた近年と比較すると高い水準です。2025年上半期はこの1歳魚が主体となるため、前年を下回るが、平年は上回ることが予想されます。

